



みちのく水辺の楽校だより

2018年 7月号



この「里山地区」には、薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡も残っています。

みちのく公園ではこの「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかわりが増えてきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。

8月5日(日) 晴れ 「ほたるの沢」の看板作りと生き物観察

水辺の楽校もしばらくお休みだったので、2か月ぶりです。今年は、ホタル観察会はできませんでしたね。今日は暑いには暑いですが、少し落ち着いた暑さになりました。活動では、「ほたるの沢」の看板作りと、昆虫や水辺の生き物の採取と観察をしました。

「ほたるの沢」の看板作り

ここがホタルの生息地だとはっきりわかるように、名称サインを建てました。使った材は、里山のスギの木。伐採して板挽をしておいた材に、文字を彫って、文字に色付けをしました。今回は、カラフルな色付けにしました。



文字彫り完成!



建込み!



文字を掘って、色付けしました。



完成しました!

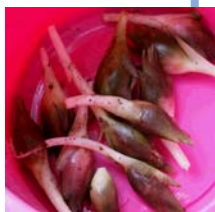


水辺の生き物の観察

「ほたるの沢」の水は、もとは田んぼ用の水だったため、流れています。ここにいる生き物は…

今日、見つかったのは、あかはらいもり・ザリガニ・カエル・バッタ・トンボ…

茗荷の畑跡地を発見!
たくさんの茗荷を収穫しました。



次回、「水辺の楽校」は9月2日(日)、オオハンゴンソウ抜きなどをします。